1　指導のねらい

・　複数の資料を的確に読み取る(領域：「読むこと」)

2　学習活動の設定

「あなたは漢字を書こうとして書けないときにどうしますか」という質問に対する調査結果は、資料①と②のとおりである。佐藤さんと田中さんは、資料を読み取って考察し、文章にまとめた。佐藤さんと田中さんの考察を読んで、その内容が適切かどうか考える。

3　指導の実際(１時間扱い／第２学年対象)

学習活動	指導上の留意点・評価(○印)
1　本時の目標を確かめる。	・表やグラフ、文章を正しく読み取り、自分の考えをもったり生かしたりすることが求められていることを確認させる。 ○進んで学習活動に取り組もうとしている。〈国語への関心・意欲・態度〉
2　資料①と②を読み取り、それらから分かることを考えて発表し合う。 (学習プリントA)	・資料の注目したところに印を付けさせる。 ・資料は拡大して黒板に貼る。 ○資料からの情報が正しく読み取れている。〈読む能力〉
3　佐藤さんの考察と田中さんの考察を読んで、その内容が適切かどうかを考える。 (学習プリントB)	・〔佐藤さんの考察〕 「携帯電話の漢字変換」をほとんどの人が使っているというグラフの読み取りの間違いに気付かせる。 〔田中さんの考察〕 「携帯電話」が、「本の形の辞書」より優れているという理由の部分の間違いや、この資料から「本の形の辞書は必要なくなる」と言い切れるのかということなどに気付かせる。 ○資料の情報と照らし合わせて、文章の内容が正しく読み取れている。〈読む能力〉
4　佐藤さんと田中さんの考察の不適切な部分を指摘し、資料を根拠にして反論の意見文を書く。 (学習プリントC)	・資料から読み取ったことをもとに、自分の考えをもたせる。
5　反論の意見文を友だちと読み合う。	・説得力のある文章を、全体の場で発表させ、考えを広げたり深めたりさせる。

4　ここがポイント

◇　資料(表とグラフ)を関連させて正確に読み取らせ、それらから分かることを十分に考えさせる。

◇　反論の意見文を書くときには、そう思う理由を、資料から見付けて書くようにさせる。

学習プリントA

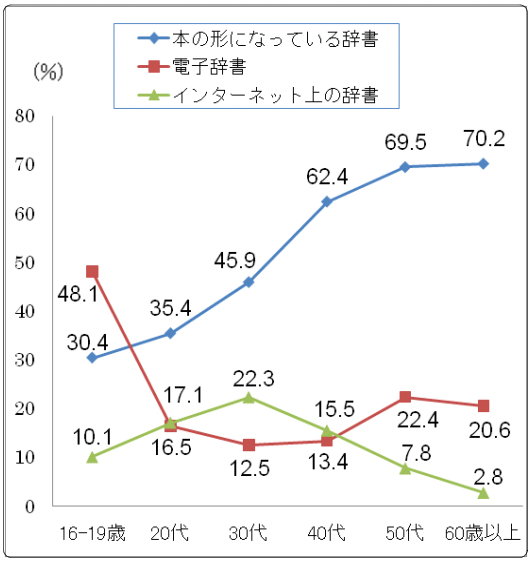
「漢字を手書きで書こうとして書けないときに、どのような手段で調べますか。」という質問項目の結果

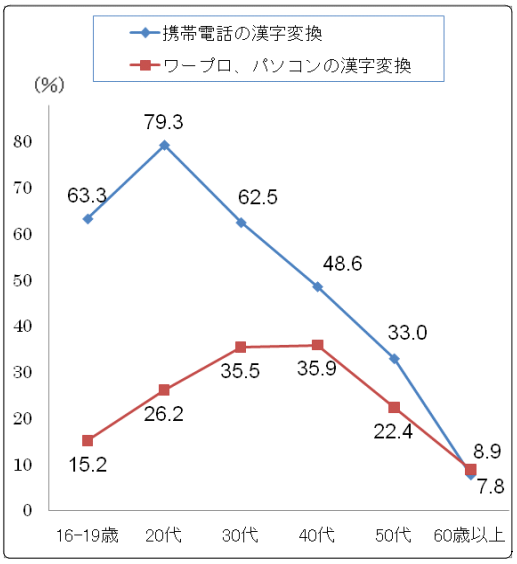
（平成十八年度「国語に関する世論調査」の質問に対して選択肢の中から幾つでも回答したもの）

資料①

調べる手段	全体の平均
本の形になっている辞書	60.6%
携帯電話の漢字変換	35.3%
ワープロ、パソコンの漢字変換	21.3%
電子辞書	19.4%
インターネット上の辞書	10.1%

資料②





学習プリントB

〔佐藤さんの考察〕

漢字が書けないときに調べる手段として、ほとんどの人が「携帯電話の漢字変換」を使っている。これは、携帯電話が普及し、多くの人が有効に使いこなすようになってきたということだ。

これからも科学技術は進歩し、より性能のよい携帯電話が作られていくだろう。そして、今後もより多くの人が携帯電話を利用していくと私は考える。

〔田中さんの考察〕

十六歳から三十歳代の年代では、漢字が書けないときに調べる手段として、六割以上の人が「携帯電話の漢字変換」を使っている。そして、四十歳代以上になると、六割以上の人が「本の形になっている辞書」を使っている。

つまり、若い人は携帯電話を使い、年齢の高い人は、本の形の辞書を使っているのである。いつでもどこでも気軽に使える「携帯電話の漢字変換」の方が「本の形の辞書」より優れているので、これからは「携帯電話の漢字変換」が中心となり、「本の形の辞書」は必要なくなる。

学習プリントC　　（　　）組（　　）番（　　）

佐藤さん、または田中さんの考察に反論する立場で、資料から読み取れることをもとに意見を書きましょう。

＊注意
・　原稿用紙の正しい使い方に従って書きなさい。
・　題・名前は書かず、百字以上、百四十字以内でまとめなさい。

140字　　100字

「カタカナを使った言葉(カタカナ語)の使用」をテーマに、学級で討論会をしたところ、鈴木さんから次のような資料と意見が出されました。これらを読んで、後の問いに答えなさい。

鈴木さんが出した資料①と②

「日常生活の中で、外来語や外国語などのカタカナ語を交えて話したり書いたりしていることをどう感じますか。」という質問項目の結果

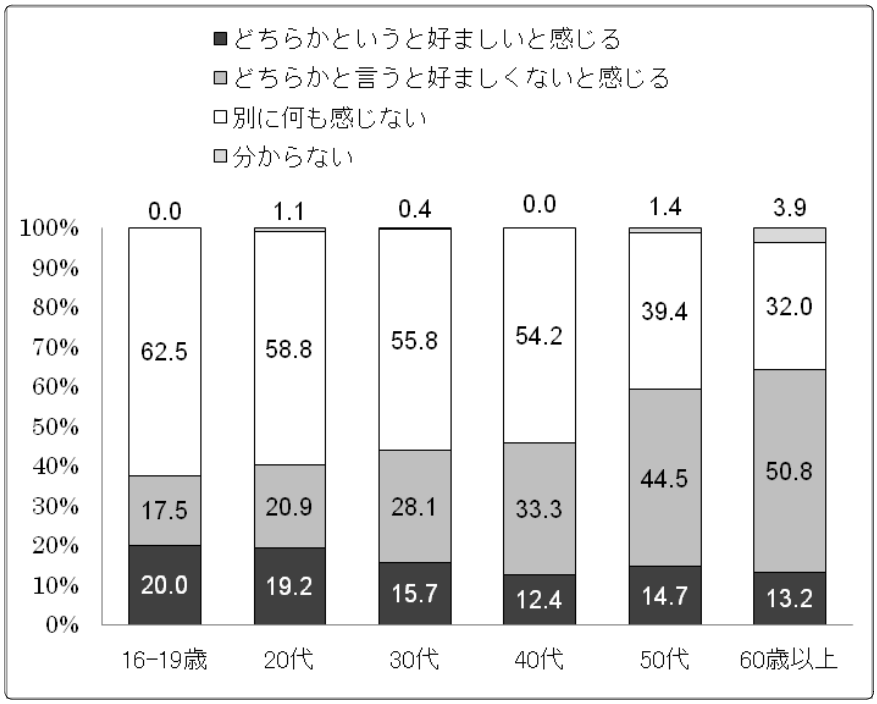
(平成十九年度「国語に関する世論調査」の質問に対して回答したもの)

資料①

どちらかと言うと好ましいと感じる	どちらかと言うと好ましくないと感じる	別に何も感じない	分からない
14.5%	39.8%	43.7%	2.0%
【16.2%】	【36.6%】	【45.1%】	【2.0%】

【　】内は平成14年度調査

資料②



資料を読み取った鈴木さんの意見

カタカナ語を使うことについては、四十パーセント近くの人が「どちらかと言うと好ましくないと感じる」と回答していて一番多い。また、平成十四年度と比べてみてもそう感じる人が増えている。

好ましいと感じる人は年齢が上がるに従って減っていき、逆に、好ましくないと感じる人は年齢が上がるに従って増えている。

このことから、カタカナ語を使うと意味が分からなくて相手に言いたいことが伝わらないことが分かる。だから、できるだけカタカナ語は使わずに会話をしたり、文章を書いたりした方がよい。

（　　）組（　　）番　（　　）

問一　鈴木さんが結論として言いたいことは何ですか。抜き出して書きなさい。

問二　鈴木さんの意見で、間違っていることや不備なことは何ですか。二つ指摘しなさい。

《解答例》

一　［　できるだけカタカナ語は使わずに会話をしたり、文章を書いたりした方がよい。　］

二　・「どちらかと言うと好ましくないと感じる」という人が一番多いと言っているが、「別に何も感じない」という人が一番多い。

・「カタカナ語を使うと意味が分からなくて相手に言いたいことが伝わらない」と言っているが、この表やグラフからはそのことは言えない。鈴木さんの考えが書かれている。